

高齢者の交通事故における死亡事故のリスク要因について

学籍番号: 22011217 土田春輝

私たちが現在進行中である高齢化社会は、数多くの課題を抱えている。中でも、道路交通における高齢者の事故は大きな社会問題となっている。この背景から、車を運転する判断能力の低下が交通事故の原因として無視できない影響を持っていると考えられる。特に、都市部とは異なり、田舎に住む高齢者にとって、車は生活の一部であり、移動手段として必要不可欠である。このため、高齢者に交通事故の現状を理解してもらい、さらに現代の技術がこの問題の解決にどれほど役立つのかを調査することが本研究の中心テーマである。

警察庁が公開している交通事故のデータを基盤に、年齢別の事故原因の分析を行う。この分析では、事故が発生した条件、例えば天気や時刻などをExploratoryな手法を用いて詳細に検討する。特に、死亡事故が多発する条件を特定することに注力する。

初期の推測として、高齢者における死亡事故の件数は非常に多いと予想される。主な要因としては、判断能力の低下や操作ミスが考えられる。また、車通りが少ない道では、適切な速度の維持が難しく、スピードを出しすぎる傾向がある可能性が指摘される。都心部と比較して、こうした道での事故傾向が異なる可能性がある。さらに、天候の悪化や視界が低い時間帯、特に夜間などに死亡事故のリスクが高まるとも推測される。

データの詳細な分析によって、高齢者の死亡事故の主要な原因やその背後にある要因を明らかにすることが期待される。そして、現代の技術が事故の防止にどれほど役立つのか、具体的な対策を提案することが今後の展望として考えられる。事故が多発する特定の条件や環境が明らかとなった場合、その情報を広めることで、一般のドライバーや関連機関への注意喚起を促進することも視野に入れて進められるであろう。

具体的には、警視庁が出している交通安全白書のうちオープンデータとして公開されている統計を用いて分析を行う。

最終的に、本研究が高齢者の安全な運転を支援し、事故を減少させるための有用な情報や方策を提供することを目指す。